



歯舞地区マリンビジョン協議会事務局では、地域協働の取り組みにより作られた『歯舞地区マリンビジョン計画(平成19年3月策定)』の行動計画について、個々の推進状況など、活動の様子について「歯舞地区マリンビジョンニュース」を発行して、地域の皆様方にお知らせしています。

発行・編集：歯舞地区マリンビジョン協議会事務局

歯舞地区マリンビジョン協議会第1回専門部会を開催

歯舞地区マリンビジョン協議会は7月29日、第1回専門部会を開催し、今年度事業実行計画について今後の取り組み方針、具体的な取り組み方法などを検討、承認しました。

今年度も地域ブランド化専門部会、漁村交流専門部会、漁業経営専門部会、衛生環境専門部会の四つの専門部会が連携を図りながら漁業振興と観光振興による地域活性化に向けて、

- 産地流通体制の強化と歯舞ブランドの消費拡大
- つくり育てる漁業環境の整備と人材育成
- 漁村・地域の総合的な振興

の3つの施策を実行していきます。

今後の取り組みについては、地元小学生の漁業体験をさらに充実させるため、これまで友知海岸で行われていた「地引き網体験」をオホーツク海側に拡大して実施することや、「エビかご漁業体験」、「ウニ拾い体験」、「漁船内部の公開」といった新たな取り組みが検討されました。

子供たちが漁業に触れる機会を増やしたり、様々な種類の漁業を経験することで、漁業に対する興味・理解を深め、「面白い!」「やってみたい!」と感じてもらえるような取り組みを今後増やしていく予定です。



8年目を迎えた長崎県上五島町との人事交流

今年で8年目となる長崎県上五島町漁協との人事交流事業で、7月28日から31日までの4日間、長崎県の上五島町漁協に歯舞漁協進藤総務部課長が派遣され研修を受けてきました。

研修では「人事交流だけではなく物の交流をさらに進めていきたい」といった今後の事業交流についての意見交換や、鮮魚荷さばき業務、漁船で沖に出て一本釣り体験などを行いました。このうち鮮魚荷さばき業務では、水揚げされた「タイ」や「イサキ」といった鮮魚の活けや神経抜きなどの鮮度保持処理や、地方発送鮮魚の荷造りを体験したほか、福岡市内を移動販売車で販売する切り身や刺身などの商品づくりも行いました。

研修を終えた進藤課長は、「上五島町漁協の職員から鮮度保持や荷造りなどに対する高い意識を感じた。この経験を業務に生かしたい」と話していました。



トーサムポロの潮干狩り 家族連れでにぎわう

歯舞地区マリナビジョン協議会主催のトーサムポロ漁港の潮干狩り事業が7月26日から始まりました。初日となった26日は、午前9時からセレモニーが行われ、歯舞漁協の竹内組合長の開会挨拶で潮干狩りがスタートしました。

この日参加したのは、市内の親子連れら約100人で、参加者はクマデやバケツを持って各所に分散してアサリ掘りを開始しました。大粒のアサリ貝が顔を出すたびに大きな歓声が上がリ、子供だけでなく大人も夢中になって潮干狩りを楽しみました。

今年度は8月9日、12日にも開催され、来場者は合計約300人のぼりました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。来年もお楽しみに！



「北方領土青少年現地視察支援事業」高知県の中学生が歯舞漁協市場を見学



「北方領土青少年現地視察支援事業」で8月18日から根室市を訪れていた「北方領土返還要求運動高知県民会議」の中学生15人と引率6人が20日、歯舞漁協を訪問しました。

北方領土学習のみならず北方領土に隣接する根室市についても理解を深めてもらうことを目的に、各種視察や体験プログラムを組んでおり、その一つとして歯舞漁協市場でセリを見学しました。水揚げされたばかりの水産物について市場職員が説明し、生徒たちはみな真剣に耳を傾け、セリの様子をカメラに収めていました。

「北方領土問題青少年・教育指導者現地研修会」歯舞漁協伊藤専務理事が講演

「北方領土問題青少年・教育指導者現地研修会」が8月4日、5日に北海道立北方四島交流センターで行われ、歯舞漁協の伊藤専務理事が「北方領土問題未解決による北の海の現状」と題し、講演しました。

全国の中高校生及び中学校の社会科担当教諭等を対象としたもので、約130人の参加者がありました。

伊藤専務理事は、歯舞地域の概要と北方四島で漁業を営むことができない現状について説明し、生徒たちからは熱心にメモを取る姿や質問する姿が見られました。



編集・発行・お問い合わせ

編集・発行

歯舞地区マリナビジョン協議会事務局

お問い合わせ

事務局 担当：根室市水産経済部水産港湾課水産振興担当

電話：0153-23-6111 FAX：0153-24-8692

